



【竹本義太夫誕生地】



【統国寺「ベルリンの壁」】

南北朝鮮統一の願いが込められている。



【堀越神社】一生に一度の願いを叶えてくれる。



【西方浄土を疑似体験】



【一心寺仁王門】



【八代目市川團十郎の墓】



【酒封じ「本多忠朝の墓」】

戦中の酒で命を落とした忠朝。酒でしくじらないようにと、酒断祈願所となった。



【安居神社（安居天神宮）】

菅原道真が太宰府に配流となる時に、船待ちをしたのがこの地。また、真田幸村の終焉の地でもある。徳川家康が陣を構えた「茶臼山」は、すぐそこである。



〈真田幸村終焉地〉



【清水寺】

天王寺で唯一の自然滝。今も、信奉者の方が水行を行っている。



【円成院「松尾芭蕉の墓」】

芭蕉は、この上にあった「浮瀬亭」での宴会中に体調を崩し、円成院に運ばれ養生するが、回復せず、亡くなったと伝わっている。墓石の判読が難しいほど傷んでいる。



【百歳（ももとせ）の階段】

大江神社の参道となっており、階段は百一段あり、この階段を上れば、百歳まで生きられると信じられている。



【愛染さん（縁結び）】



【元三大師堂（芭蕉の墓）】



【怨霊消滅（高橋多一郎父子の墓）】

「芭蕉の墓」は大阪に四基確認されている。芭蕉の門人らが供養を兼ねて建てたものと考えられる。遺体は遺言通り義仲寺に運ばれ、木曾義仲の隣に葬られている。

「高橋多一郎（水戸藩）」は、桜田門外の変の首謀者の一人。変の後、大坂に潜伏していたが、幕吏に見つかり、逃走中観念し、小川欣司兵衛の奥座敷を借り切腹する。息子も後を追って自決する。小川により墓が建てられたが損傷がひどくなり、昭和62年に再建された。壮絶な最期であったため墓石には「怨霊消滅」と彫られた。



【仏足石】



【「東門」伊勢神宮遙拝石】



【「南門」熊野権現遙拝石】

伊勢神宮、熊野大社へお参りに行けない人は、ここから遙拝した。



【四天王寺】



【「西門」石の鳥居（日本三大鳥居）】



【ぽんぽん石（地獄の音が聞こえる）】

西にある阿弥陀浄土信仰により、彼岸の中日に鳥居の真ん中に日が沈むように建てられた。夕陽丘の由来である。かつて「西門」では生きたまま極楽浄土へ行く「補陀落渡海」の儀式も行われていた。



【竹本義太夫墓所「超願寺」】



【谷の清水（天王寺七名水）】



【日本最初「庚申堂」】

「庚申」の夜に体内の「さんし」とう虫が抜けだし、天帝に主人の悪行や罪を報告するという道教の信仰があり、「庚申」の日は眠らないで過ごすという風習が各地に広まった。
近畿大学泉州高等学校「地歴部」